「月次決算実施関与先件数」増加事例⑪

「月次決算は黒字化支援のため」との思いを共有

宮原秀樹会員（TKC神奈川会川崎支部）

インタビュー動画はこちらから

武蔵小杉税理士法人では「関与先の黒字化支援には月次巡回監査が欠かせない」との方針を掲げて事務所全体で取り組み、前年同月比40件増を達成しました。その経緯を、宮原秀樹所長に伺いました。



宮原秀樹所長
武蔵小杉税理士法人
神奈川県川崎市中原区小杉町3丁目1501セントア武蔵小杉B棟7-301
◎開業年：2014年
◎巡回監査担当者数：6名
◎月次決算実施関与先
前年同月増加数 ＋40件

※令和8年7月末現在

黒字決算割合の低下に危機感

――所内で月次巡回監査を徹底しようと考えたきっかけは何ですか。

宮原 きっかけは、OMSの「目標管理（KPI）機能」の数値です。継続して確認していたら、以前よりも事務所の状況が把握できるようになってきました。

そんな中、黒字決算割合が前年より低下していた時期があり「これはまずい」と危機感を覚えたことがきっかけです。

――月次巡回監査の必要性をどのように所内に浸透させていったのですか。

宮原 スタッフには「お客さまの業績向上なくして私たちのビジネスは成り立たない。だからこそ、月次巡回監査を徹底しよう」と伝えました。数字の追求ではなく、「お客さまの業績向上のため」という目的の共有を大切にしました。

対話が増え、業績改善の関与先も増加

――月次巡回監査の意義をどのように考えておられますか。

宮原 黒字化の入り口は月次巡回監査です。正確な月次決算がなければ正しい経営判断はできません。お客さまにも「月次決算が経営改善の第一歩」「毎月真剣に業績を把握して改善を積み重ね、経営に役立てる」という意識を持っていただけるよう、働きかけています。

――翌月巡回監査率の向上に向けた具体的な取り組みを教えてください。

宮原 OMSのKPI機能だけでなく、「貴事務所の翌月巡回監査率」や「月次決算速報サービス」等の複数データを毎月確認しています。職員に巡回監査や経営者との対話の内容を共有してもらい、月末に全件チェックを行って見落としを防ぎます。担当者は未実施先に対して「なぜできなかったか」という説明を求められるため、自然と意識が高まりました。

また、神奈川会の「みらい設計会議」や川崎支部の「月次決算体制の構築支援」実践勉強会に参加し、全国会の運動方針に沿って「事務所全体で同じ方向を向いて基本を徹底したこと」が結果につながったのだと思います。

――今後の目標を教えてください。

宮原 大切なのは、所長の思いをスタッフが理解し、それがお客さまにも伝わることです。月次巡回監査の徹底によって関与先との対話が深まり、業績が改善した関与先企業も増えてきました。これからもスタッフと共に、お客さまの黒字化支援に取り組んでいきたいと思います。

（横浜SCGサービスセンター長　山本亮平）